

## 第2回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録（要旨）

- 開催日時：平成31年2月15日（金）13:30～15:30
- 開催場所：のいちふれあいセンター 3階第1・第2学習室
- 出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、岡林順子委員、宮崎利博委員、中協正人委員、小松さやか委員、古川和佳委員、田中愉之委員、長崎篤史委員、百田年真委員、山中和男委員、國松美紀委員、前田和彦委員
- 事務局：村山農林課長、小松商工水産課長、山下こども課長、岡林地域支援課長、西内企画財政課長、浜田企画財政課長補佐、田淵、嶋内、

### 【次第】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
  - (1)・平成30年度の取り組み状況および進捗状況について
  - ・平成31年度の新たな取り組み（予定）について

- 委員長 

それぞれの立場から改善の案や対応策について、あらゆる角度からご意見をいただきたい。事務局の方で反映できるものがあれば速やかに反映していき、大きな予算も含めて準備が必要なものは、来年度もしくは次期総合戦略で取り組んでいくなどの判断は副市長を中心に検討していただくこととし、全員から意見をいただきたい。
- 委員 

人口を増やすことを1つの目的とし過ぎるのではなく、そこに住んでいる人がいかに満足しているかを考える。高知大学地域協働学部の学生が地域に入るなどすると、地域の人も喜んでくれると思う。満足している人々の人口が増えればいいと思うし、根本はそこかと思う。
- 委員長 

香南市の将来をどう描いていくかに繋がっていく。人口ビジョンは元々そういったつくりになっているはずだが、人の数というところに目が行き過ぎている。国が2060年に人口1億人を維持するということから数で動いており、数に目が行き過ぎている点はある。

この状況の中で、香南市としては「こう考える。」ということが委員の皆様から意見としていただき、それが反映されると、次の5か年計画については全然違う組み立てになっていくのかもしれない。
- 委員 

子育てについて、3人目となると経済的な負担が大きくなる。香南市は医療費も無料で子育てに対する施策も充実していると思うが、もう少し経済的な支援があれば良

- い。
- 副委員長 経済的な面についての医療費や保育料などを合わせて、3人目を育てるとなると、両親が近くに住んでいて何かの時に預けることのできる環境が必要。どうしても困ったときの制度も市にあるけれど、今後こういった支援にも力を入れていかなければならない大きな柱と思う。
- 委員長 3人目の壁というところでは、男性の育児に対する支援が無いと難しいということによく言われている。
- 委員 保育所の一時預かり（基本目標3）のことで、一時的にでも預かってもらいたいということで、困っている世帯が多いのではないかと。ファミリーサポートセンターについて、制度は知っているが、登録するまでに、研修等がありハードルが高く、踏み出すまでにいたらないということが実情。
- 学校の土曜日授業や参観授業の時に、市役所の方が来て、保護者の方に制度を説明したりなど登録する間口を広げていき、保護者以外にも定年退職後の元気な中高年の方々がいるので、「市全体で子どもを育てていく、みんなでみる。」というところを目指したらと思う。
- 委員長 ファミサポは、香南市だけでなく県全体で課題となっている。
- 委員 資料1（基本目標1～4）まで、それぞれで成果がでていますが、香南市として基本的にどう動いているのか、「上手くいっているのか、いないのか」が見えない。個別票の前に、数ページあるいは2枚程度で、総括的な評価のたたき台を出してもらえれば、議論が進むのではないかと。そういう形でのとりまとめをお願いしたい。
- 委員長 事務局とのやり取りのなかでも、そういう議論をずっとしている。今回は毎年の進捗管理なので、泣きのマークと笑顔のマークで分かりやすく、個別に具体的にしていき、全体に対しては次回の会で振り返ることになる。
- 実は、国も同じように俯瞰しようとしている。基本目標1・3・4に関しては結構うまくいっているが、2の人口動態が上手くいっていない、極端に言えばそういった結論。人の流れが変えられていない。総括的にみるとおそらくそのように見えるのが一般的と思う。
- 次回に向けて、資料づくりは事務局としっかり練りこんでいきたい。
- 委員 高知大の学生が農業のアルバイトに来てくれている。現在3年生で4年生になるにあたって就活するというので話を聞いてみたら、高知県ではなく別のところに就活に行くと言っていた。香南市で住んだ子たちがなぜ県外に出てしまうのか。県外から来て、高知県に住んで、学んで、高知を出るという決断をしているので、香南市の施策が今後仕事をしていこうという世代にちゃんと伝わっているのかどうか。外に出て行って仕事をしたいと思う子たちが、「どんな施策があれば、高知県にとどまるという選択をしてもらえるか。」を、大学生やある程度若い世代を対象に調査を進めていかなければいけないと感じた。一度高知に来てくれた人を定住させることができれば、人口

減対策に繋がっていくのではないか。

■委員長

高知大学の農林海洋科学部の学生が特に県外出身率が高い（8割超）ので、その学生が定着してくれれば、かなり大きな貢献になる。私自身もこれを課題として、どうやったら県外流出を防げるか、大学全体、あるいは県内の大学全体でさまざまな取り組みを行っている。2月5日の高知新聞に、高知大学の記事があり、見出しが「地域協働学部進路は普通」と出ていたが、学部の生徒は西川集落活動センターでも非常にお世話になっているが、進路は7・8割が県外に就職する。いろいろな活動でお世話になったけれども、やっぱり県外に出ていくという傾向が高い。これをどうしたら良いか。

一方で、高知県から見ると県外から来た学生が、県外に流出している表現になるが、彼らはUターンしていることになる。だから、故郷から見ると、一旦大学進学で県外に出た人たちが就職で戻ってきている。こういう風に見てみると、高知県を離れて大学（県外）に出て行った人たちは戻すにはどうしたら良いか、というところが見えてくるかもしれない。

■委員

香南市として、単純な外国人労働者ではなく、学校の先生や研究者の方などをファミリーと呼び寄せ、受け入れる。その先生が香南市内の保育園や小学校、中学生を教えたりする。公立のインターナショナルスクールみたいなものをつくると、それに伴って、観光や働く場所、お店などができると思う。

日本で一番先に、香南市が公立のインターナショナルスクールなどをつくると、子育て世代も子どもも増えるし、そこから優秀な人材の育成に繋がっていくのではないか。

■委員長

さまざまな面で多様性が高まり、グローバルな意味で人の流れが活発になっていく。そういった方々にも魅力を感じてもらえるような制度など、まちづくりを心に持って視野を広げていくことが大事になる。

■副委員長

総合戦略の中で目玉となる、「香南市はこれをやっていきます。」ということが非常に弱いと指摘されている。いただいた意見も含めて、目玉として「集中的に香南市はこれやっていくんだ。」ということもこの会の中で考えていきたい。

■委員長

高知大学の農林海洋科学部のなかには留学生がたくさんおり、キャンパスで学んだ留学生は世界各国ですごく活躍している。繋がりという意味で、世界と繋がるということ大切にしていくと、研究者の方々は母国に人脈や技術を持っており、つながりが広がっていくことで信頼関係が増すことはあると思う。

また、物部川の対面にもそういう拠点があり、高専にも留学生がいるので、そういうことを考えることは決して飛躍した考えではないと思う。

■委員

田舎で、公立インターナショナルスクールをやるとなったらみんな喜んでくるのではないか。

■委員長

インターナショナルスクールに一番注目しているのは、日本のお母さんたちで、預

けたいと言っている。

■委員

新規就農者の方で新規就農に関する補助金を使えなかった方が、どういった理由で使えなかったのか、成果がでてないので、分析をお願いしたい。

■事務局

相談はかなりの件数あるが、相談に来た時点で何をしたいか固まっていない方もいる。そこで就農に至らない面がある。また、年齢で当てはまらない方は1名だった。就農の部分での支援（実績）が無いというだけで、就農するまでの準備期間である開始型という補助金を活用するチャンスはある。本人が決め切れてないのが現状だが、実績は増えてないので、分析は行っていく。

■委員長

この話は市だけでなく県の農業振興部の支援策もあり、JAにもいろいろ関わりを持っていただくこともあると思う。そこを、一体的にやっていくことで、新規就農やUターンIターンされた方の就農を促していく形がとればよい。掘り下げて調べていただき、反映できるのであればお願いしたい。

■委員

商工会の方々が、空き家店舗を再利用するという形で動いてくれているが、赤岡町の商店街の人通りが少ない。赤岡町はお祭りの多い町だが、赤岡町だけでは、後継者不足で、必然とお祭りの開催は難しくなる。今年は、高知県全体で実行委員を募集している。

農業や漁業も一人ではできない。お祭りも同じであり、チームで動くということが大事。お祭りは赤岡だけでは回せないのも、他の4町と連携がとれたら良い。この先、商店街もチャレンジショップを1か月に1回やってみようか、などの話に持っていくような工夫をしていただきたい。

■委員長

5町とひとつにまとめていくという話もあるが、一方では、それぞれの個性が確立しているので、その個性を生かすのも良いのではないかという意見もある。

今後それぞれ5町の実態など、市全体で同時に細かく見ていき、それぞれのお祭り・商店街、あるいは農業を含めて、現場に対する課題を抽出して、お互いがカバーし合えるような関係性が市全体でできないかといった見方もしていかなければいけない。

■委員

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、産・官・学・民が一体となってビジョンを掲げていき、人口減が想定されるなかで、移住するにしても日々の暮らしがあり、収入が必要になってくる。そういう意味では、金融機関も関与して、目先でなく中長期的なビジョンに立った計画を一緒につくっていかなければならない。

■委員長

生産性をどう上げていくかというところで見ると、数値的には劣っているということはこれまでも指摘されてきた。県は事業戦略の策定を、産業振興センターを中心に金融機関も一緒になって、各企業が事業規模に関わらず取り組んでいると聞いている。事業戦略で気になっていることが、エリアごとの濃淡、どれぐらい事業戦略が活用されている、浸透しているか分かると、産業振興計画的にも実行性があることになるのではないか。

- 委員 今年から産業振興計画のバージョンアップを行っており、その一環として、地域ごとに企業支援コーディネーターを配置し、産業振興センターの方と一緒に企業訪問しながら、アクションプラン等で自治体とも関わり合いながら、かなり成果は上がってきたと認識している。来年度は、企業支援コーディネーターの増員も予想されている。また、定期的に、そのデータ情報を企業支援コーディネーター相互に情報交換する場があり、その中で課題なども抽出し、フィードバックするという方法を考えている。
- 各地域でコーディネーターが活動されていることを、県も今以上にPRしていく必要がある
- 委員長 個別の企業やビジネスをやっておられる方に、安全でしっかりとした支援体制を組んでいくということと、経済的な指標がどう見えるかとういうことの間には、一定印象の違いや時間的なギャップが生じることがあるので、そのあたりをどう見ていくかという所も考えていかないといけない。生産性を上げていかなければならないことは絶対なので、これを地域としてあるいは県としてどう考えていくか。
- 委員 移住の方が、今どんな仕事に就かれているのか。移住してきても働き口がなければいけない。大学で県外に出ても、香南市に戻りたくても仕事がないということもある。香南市の魅力は、子どもの時から分かっていると思うが、やはり働き口が必要。
- ケーブルテレビの番組の中でも、古川委員を取材させていただき、農業をいきいきされているのを感じる。農業、漁業の魅力を成功してやられている方の話を身近に聞くことや、良さ・魅力・長所をもっと沢山の場でPRすることができればと思う。
- 子育てに関しては、香南市には元気な高齢者の方も沢山いるので、力を借りて地域で育てていくことによって、その方の生きがいにもなる。
- 委員長 移住者の方がいきいきと生活しておられる現状を、しっかりと見える化していき、外に対するアピール（広報）をしていく。そういうことをもっとやっていくべきではないか、という意見と合わせて、いろいろな面で、何が起きているかを周知していく必要がある。ここに繋がるのではないか。
- また、いろいろな支援策に対して十分手が挙がっていないということの原因解明などの分析も求められている。
- 「見える化していくこと」あるいは「現状の分析」を徹底的にやりつつ、課をまたいで連携していくことが求められる。
- 子育ての話がでてきたが、ファミリーサポートセンターの話につながっていくと思われるが、サポーターの数が伸び悩んでいるという課題を超えられれば、移住者も含めて子育て環境の改善が抜本的にみられるかもしれないと、期待が膨らむところ。
- 委員 高知の中央部は結構結成されている一方で、中山間地域が需要がないということもあるかもしれないが、伸び悩んでいる。
- 一つは、まったく知らない他人に自分の子どもを預けられるかという傾向が、特に

田舎に行くほど強いと言われていて、逆に都市部では、核家族化や働く女性が多いこともあり、設置が進んでいるといった実態がある。県としてもさまざまな人から意見を聞いて分析している。

「制度的な問題」か「心の問題」かもあるので、分析して改善していく。

また、個人的な考えではあるが、集落活動センターなど「地域」として受け入れることができれば、気心が知れているため預けやすい。上手くリンクさせて「地域で子どもをみる」といった発想でいけばよいのではないかと、県として政策起提していきたい。

■副委員長　さまざまな課題のなかで、預かる場所が「自宅」というが一つの大きな壁とされている。例えば、地区の公民館や集落活動センターで何人かで集まってできる方法を考えるなど、香南市のなかでも大きな課題であり、このような意見は確かにあると聞いている。

■事務局　ファミリーサポートセンターという制度は知っているが、登録や活動となると躊躇され、伸び悩んでいるという状況です。就学前の子どもの保護者へのアンケートや聞き取りをするなかで、「知らない人に子どもを預けることが不安」や「自宅でみるのに抵抗がある」、また「料金が少し高い」などの課題があり、それら一つ一つを県と協議しながら取り組みを行っている。例えば、自宅でしかできなかったものを自宅以外の公民館などでもできるようにしましたし、総合子育て支援センターの中でもファミリーサポートセンターの活動ができるようにしたいと考えている。

料金が低いという部分では、減免の制度があるので、それを拡充することができないか検討・協議しており、利用しやすい制度になるように取り組みを進めている。

■委員長　産業振興計画でも横串を刺していこうということで、合同部会を開催したが、子育ての環境と移住施策は完全に一体化していないと十分なものにはならない。

子育て支援を中心にまち・ひと・しごと創生総合戦略を見たり、産業振興計画を見たりすると、また違った突破口や今後の香南市を語るうえで、違った動きがでてくるのではないかと感じた。

今日頂いた意見のなかで、細かい分析が求められるところは各担当課で解析していただき、それについては共有していきながら来年度に反映させていく。一方で、仕事のことと子育てのこと、このあたりの子育て環境を中心にしっかりと議論していく場、合同部会などを考えていくようにしてはどうか。

■副委員長　産業振興計画と人生支援計画はそれぞれ合同部会を開催している。まち・ひと・しごと創生総合戦略に関しては、「しごと」の分野を多く受け持ったり、「ひと」の部分を受け持ったりしているので、産業振興計画も人生支援計画も合わせて一体化したものを何かできていかないかというところで考えていきたい。

■委員長　それぞれが具体的に、次どうするかを考えるうえで、一体化しながらやっていくこと。これも1回開催したのでやりましたではなく、頻繁に集まれる人が自発的に集ま

り、そこに市の職員が入っていくようにしないと、なかなか先に進まないし、非常に重要なおところではないかと感じている。ぜひ検討していただき、次年度に向けては今日の意見を事務局として、考えていただくようお願いする。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂(案)について

■委員長 | 平成30年度を振り返りと31年度の新たな取り組みについて改訂(案)に反映させている。この内容でよろしいか。

■委員 | (異議なし)

4. その他

(1) 平成31年度年間予定(案)について

(2) 第2期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

5. 閉会